

今日のトピック 業績相場と金融相場の狭間にある米国株式市場 今後のドライバーは次第に業績ヘシフトし、堅調持続

ポイント1 高値更新の米国株式市場 ジャクソンホール会議を無難に乗り切る

- 27日の米国株式市場は、ジャクソンホール会議でのパウエル米連邦準備制度理事会（FRB）議長の講演内容が、ハト派姿勢であったことで安心感が広がり、堅調となりました。S&P500種指数、NASDAQ総合指数が最高値を更新しました。

ポイント2 業績が金融緩和持続が 堅調な小型株とグロース株優位

- 先週の株式市場は2つの特徴的な動きがありました。1つ目は、ラッセル2000が前週比+5.1%、S&P小型株600指数が同+4.1%など小型株が堅調だったことです。2つ目は、実質金利が低下し、グロース株が再び優位となったことです。小型のグロース株もありますが、あえて区分すると、小型株の上昇は景気（業績）回復期待であり、グロース/バリュース比率の上昇は金融緩和持続に対する期待の強さと見ることができます。

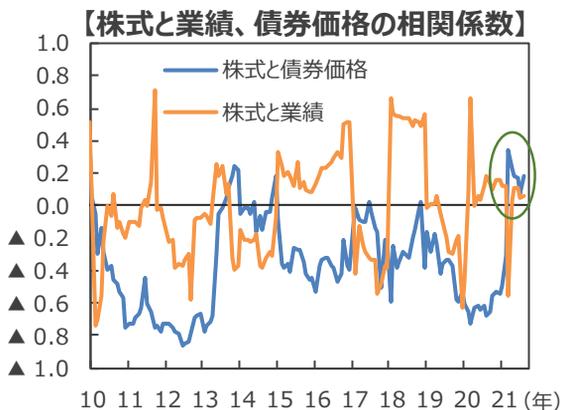
今後の展開 今後のドライバーは次第に業績ヘシフトし、堅調持続

- 今後、米国株式市場は景気と金融緩和維持のどちらがドライバーとなるのでしょうか。株式と業績、株式と債券価格の相関係数は、いずれもプラスの水準にあります。債券価格とのプラスの相関が強まれば金融相場、業績とのプラスの相関が強まれば業績相場です。現在は、足元の数値はともに小さく、強い関係は認められないものの、両方ともプラス圏に位置するという珍しい局面です。
- 今後の金融・経済の正常化の流れから判断すると、現在は、債券価格との相関がマイナスに転換（債券相場が下落し、株式市場が上昇）し、業績とのプラスの相関が強まる局面へ移行する狭間にあると思われます。雇用統計の堅調さが続き、量的緩和の縮小（テーパリング）開始の足音が近づいてくれば、株式市場のドライバーは次第に業績ヘシフトすると考えられます。米国株式市場は、業績主導で堅調な地合いを持続すると予想されます。



(注) データは2020年1月2日～2021年8月31日。グロース/バリュース比率はS&P500グロース指数と同バリュース指数を用い、2020年1月2日 = 100。実質金利は米10年国債利回り一期待インフレ率。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



(注1) データは2010年1月～2021年8月。
(注2) 相関係数は株式と業績（債券価格）がともに上昇/下落すればプラス。一方、業績（債券価格）が下落（上昇）して、株価が上昇（下落）すればマイナス。相関係数はS&P500種指数と米国債、12か月先予想EPSで、12か月ベース。S&P500種指数はトータルリターン。米国債はBloomberg Barclays U.S. Treasury Total Return Index。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここもチェック! 2021年8月31日 米国の『バクトウスクール商戦』は好調な模様 2021年8月26日 2021年9月の注目イベント

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。